

計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

会報

2007-7

発行日：平成19年7月12日

発行元：計画・交通研究会

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

TEL=03-3265-1774 FAX=03-3221-5489

E-Mail= jimukyoku@keikaku-kotsu.org

Homepage=http://www.keikaku-kotsu.org/

目次

Opinion	1-2
歴史的評価と都市・地域づくり	
News Letters	2-7
事業報告・活動報告	
Announcement	7
研究会・催事の御案内	
Backyard	7-8
事務局通信	

□ Opinion

我が国のインバウンドに思うこと

岡本直久

1996年に384万であった訪日外国人旅行客数が、2006年には730万人を超えた。この10年の間に倍増したのである。ウェルカムプラン21(1996年)、新ウェルカムプラン21(2000年)と、それらにつづいて小泉政権下で始まったビジット・ジャパン・キャンペーンの効果が数字に現れている。新ウェルカムプラン21で掲げられた2007年における訪日外国人数800万人という目標値も到達できる勢いである。これらの取り組みにおいては、日本ブランド・魅力の発信や海外広報・PR活動、国際交流事業などが強調されている。周辺アジア諸国の経済発展、愛・地球博などの国際イベント開催などとこれらの取り組みがうまくマッチした結果であろう。

ただし、これまでの政策はどちらかというと、日本に受け入れるまでの政策に偏っている感がある。次の段階に向けて、今一度、日本の受け入れ態勢を考える時期に来ているのではないだろうか。これらの取り組みを継続的に進めることはもとより、折角来てくれた外国人に、「また来よう」と思わせることが今後は重要な課題となる。

訪日外国人受け入れについて、周りの留学生や、友人との会話で、意外なことに気づかされることが多い。例えば、外国人が日本に来た際に不便

と感じる事柄として、長距離移動の鉄道切符の表記が指摘される。新幹線でも、空港アクセス鉄道でも、殆どの指定席切符には全て漢字と数字のみの表記である。○号車○番Aなどの表記は、欧米からの来訪者にはなんら意味不明の記号であり、国内移動のバリアの一つといえる。同じく鉄道で言えば、駅における英語やハングル表記は当たり前になりつつあるが、通常時でも、突発的な事故等の情報のアナウンスは日本語のみである。巨大なターミナル駅では、日本人ですら目的ホームへの経路が複雑で分かりにくい場所であるにもかかわらず、英語表記を見つけることすら難しい。

観光地についても、外国人のニーズとのギャップを感じることもある。日本を代表する観光地である浅草には、たしかに多数の外国人が来訪している。ただ、驚かされたのは、建物の脇や柱の下の地面に座り込んでいる外国人が多いことである。外国人の生活習慣ばかりを気にする必要はないと思うが、諸国では公園などの人の集まる場所には、ベンチなど腰掛けて会話できるベンチなどがおかれている。ちょっとした工夫で、来訪者に不快感を与えないように出来るはずである。

海外に訪れると必ず目立つ場所にある観光案

内所も、日本には注意してみていると分からない場所があったりする。調べてみると都内に設置されている公的な外国人観光客対応案内所も4カ所に過ぎない。ヨーロッパで便利だなと感じるちょっとした時間を潰すためのイクスカーションを案内するサービスも我が国においては定着していない。

どれほど、日本が外国人の旅行に不便かについて、実験してみた。日本に来て1年にも満たない留学生に、浅草寺を目指して歩いてもらった。彼は、雷門からかなり離れた場所で、歩行者に道を聞くというチャレンジをしてくれた。聞かれた歩行者はかなり親切だったのか、英語が出来なかったからか、雷門まで彼を導き、指を差して浅草寺の方角を教えてくれた。同様のことを何回か試みてもらったが、殆どの日本人は英語がしゃべれず、分かりやすいところま

で手を引いて連れて行ったりしてくれた。やはり外国人観光客を受け入れるための語学力の低さは認識できたが、改めて親切な日本人の多さに、逆に期待できると感じた。

インバウンド政策の重要性を私に教えてくれたのは故渡邊貴介先生である。前職の運輸政策研究所研究員時代に、客員研究員をなさっていた渡邊先生との共同研究を志願し、インバウンドの歴史や思想の変遷などについて、ご教授頂いた。いかにインバウンドが重要であるか、70年代以降に遅れた政策をいかに取り戻すべきか、熱く語られる先生のことを思い出す。渡邊先生の高い志には到底追いつくことは出来ないかも知れないが、これからもインバウンドに関わる調査、研究を続けていきたい。

(計画・交通研究会正会員/筑波大学
システム情報工学研究科 准教授)

□ News Letters

事業報告・活動報告 □

■2007年5月 定例研究会

(土木学会CPDプログラム認定)

- 日 時：平成19年5月14日 (月) 15～17時
- 場 所：計画・交通研究会 会議室
- 演 題：「交通とジェンダー ～平等とエンパワーメント～」
- 報告者：國枝美佳 氏
(世界銀行 コンサルタント)
- 司 会：東京海洋大学教授 兵藤哲朗先生

【講演概要】

途上国を中心に、世界の交通条件をつぶさに見れば、男女の交通ニーズが大きく異なる場面を多く目にする。例えば、アフリカでは女性は水や食料などの運搬を担当することが多く、結果として、平均徒歩距離が格段に長いこともある。また、子供を身籠もる女性にとっては、保健施設へのアクセスの善し悪しは、母子の生命を左右する深刻な条件でもある。エチオピアのある病院のデータからは、通院する妊婦は平均で徒歩5時間、入院患者の18%は1日以上歩く距離に住んでおり、45%は帝王



▲講師：國枝氏

切開可能な施設へ出産時にアクセスできないという。

また、都市交通でも、女性の自由な移動、安全、ニーズを考慮しているか、今一度再考する必要があるだろう。日本の女性専用車両も最近増加しているが、公共交通における興味深い事例といえる。さらに、都市交通では、交通セクターの女性労働者にも注意が払われるべきである。平均的には世界では交通セクターの10-20%程度が女性労働者であり、その数は増加傾向にある。職場における差別の撤廃、家庭と仕事の両立を支援する施策なども

考慮されるべきであろう。

世界銀行では、「交通とジェンダー」という視点から、途上国の貧困層の7割を占めるといわれている女性、人口の1割と言われている障害者、高齢者、地理的に隔離されている農村人口の貧困が緩和されると考え、様々な試みを各国担当者を交えて推進している。例えば、数年前より、「交通と社会的責任」セクションのプロジェクトとして、「交通とジェンダー」について調査を継続してきた。また最近ドイツ援助庁によって発行された「入門 ジェンダーと都市交通」も公開され、議論を活発化したいと願っている。世界銀行における「交通とジェンダー」については、

<http://www4.worldbank.org/afr/ssatp/Resources/HTML/Gender-RG/index.html>

または、世界銀行ホームページ表紙より、

www.worldbank.org > topics > transport > social responsibility > inclusion > gender
を辿れば各々関連資料を閲覧することができる。國枝も執筆担当したドイツ援助庁による入門書のpdfファイルは、

<http://www2.gtz.de/dokumente/bib/07-1025.pdf>

から入手可能である（下はその表紙）。

今後の議論の題材として参考になれば幸いである。



■2007年5月 計交研・当て塾共催セミナー （第Ⅶ講・第2回）

●日 時：平成19年5月9日(水)17:00～20:00

●場 所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

①(株)ラック計画研究所 取締役 熊谷圭介氏
長野県飯山市の取り組み

②(株)ラック計画研究所 副主任研究員
安在真子氏

甲州市（旧勝沼町）都市再生整備計画

●参加者：19名（うち計交研関係8名）

●場 所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

〔講義概要〕

◆フォーラム当て No.2◆（熊谷圭介）

長野県飯山市の取り組み

観光のユーザー志向が多様化・成熟化し、旅の形態もマストツーリズムからオールタナティブツーリズムへと変化しつつある中で、スキー・温泉依存型の観光産業構造からの変革を目指し、全国からも注目されている長野県飯山市の取り組みを紹介した。観光取り組みの系譜の中で社会資本整備が果たした役割や、これからの観光振興に必要な社会資本整備のあり方についても考察した。また、2014年の開業が目論まれている北陸新幹線飯山駅周辺の観光振興計画、および駅周辺都市空間デザイン計画の考え方や作業手法について報告した。

1. 観光産業構造改革への取り組み

飯山市は昭和30年代前半に最初のスキー場が開設され、農家によるスキー民宿が始まった。その後、市内各所にスキー場が開設され、昭和40年代後半には民間による斑尾高原の開発が進んだ。平成5年にスキー客のピークを迎えるが、その後は減少に転じ、現在はピーク時の1/2から1/3程度である。

こうした状況から、スキー・温泉依存型の観光からの変革が求められ、エコツーリズムやグリーンツーリズムの推進、菜の花を活かした修景やイメージづくり等の取り組みが進められた。

特徴的な振興策として、「信越トレイルクラブ」や「森林セラピー基地」（林野庁）を活かした観光振興策がある。

2. 北陸新幹線飯山駅周辺観光振興計画策定 （信州菜の花地域ウェルカムプラン）

飯山駅周辺地域を『信州菜の花地域』と位置づけ、“じっくりゆっくり歩く旅”を中心とした「スローツーリズム」と「エコミュージアム」を基本に、以下の全体戦略を提示した。

①魅力あるコア（街なか）の形成／②魅力あるサテライトの形成／③スローツーリズムを実現するネットワークの形成／④スローツーリズムのプロモーション・情報／⑤温かくもてなす交流・ホスピタリティ

計画策定に当たってモニターツアーを実施し、“歩く旅”を推進するための具体的な問題点・課題の把握を行った。

3. 駅周辺都市空間デザイン計画策定

北陸新幹線飯山駅広域観光ゲートウェイ機能整備として、以下の4つの基本機能と対応施設の整備を提示した。

〔基本機能〕①観光情報収集・分析、提供機能／②地域情報提供機能、景観形成推進・普及啓蒙機能／③住民・旅人の交流機能／④観光2次交通ステーション機能

〔対応施設〕北信州・信越地域観光・交流推進戦略センター／旅情報・旅案内センター／旅の物産センター／菜の花・フラワーアトリウム／菜の花・市民プラザ／バス・乗合タクシーセンター、待合室、案内・乗車券販売カウンター／レンタカーカウンター／駐車場 等

◆観光地づくり事例紹介-2◆（安在真子）

都市再生整備計画（甲州市／旧勝沼町）

（まちづくり交付金事業）

〔主体〕山梨県甲州市（旧勝沼町）、景観まちづくりプロジェクトチーム

〔期間〕平成17年度～18年度

〔課題〕ぶどう狩り客の減少（団体から個人へ）／農業後継者不足によるぶどう棚景観の維持／合併に伴う職員の分散、予算縮小

〔目標〕景観保全と観光（産業）振興の好循環

〔成果〕景観ガイドラインの策定／勝沼フットパスイベントの実施／宮光園整備活用計画の策定（整備はH21年度までの予定）

〔プロジェクトの段階とキーワード〕

◇企画：景観保全と観光振興の手段としてのフットパス

◇計画：市民（志民）の参画と役割分担

（文責：「当て塾」事務局 野倉 淳）

■2007年5月 計交研・当て塾共催セミナー （第Ⅶ講・第3回）

●日 時：平成19年5月24日（木）17:00～20:00

●場 所：計画・交通研究会会議室

●講 師・演題

「みんなで作る美しい道」出版記念講演

「当て塾」塾長 鈴木忠義先生

●参加者：29名（うち計交研関係11名）

〔講義概要〕

鈴木忠義先生の編著による「みんなで作る美しい道」（（社）道路緑化保全協会編、技報堂出版、A5版、124PP.、2007.5.23）が出版された。この本は一行見出しと写真と簡潔な文章で構成されており、関係者が活用する“カタログ”となるよう意図されている。

下記の概要で、各章の後段に掲載した言葉が一行見出しである。

□まえがき

本書は「人間にとって道とは何か」を考え、「道はどうあらねば」をすべての人に考えてもらうことを願って編集されている。

「道と緑と人間と」の関係を明確にするため、12回にわたる写真コンクールの公募写真などにより多数の事例を紹介している。

□序 章 道の文化

道は人間が創るものであるという観点から、道と文化に関する基本事項を概説している。

人間の生存に不可欠な水、食糧、住処は、知恵と技によって地域の気候風土に適合した文化となっている。道も同じような文化を辿る。用・強・美+聖のバランスのもとに、技術美溢れる道を目指していく必要がある。

人間生存のみちとその文化化へ／道をつくる／道と緑と人間と／季節と自然に親しむ／人は時間と空間のなかで楽しむ

□第1章 人間と道

人間が生存や欲求のためにどのような道を創ってきたか、道が人間社会にどのような役割を果たしているかを概説している。

道は社会資本形成の基礎施設であり、関係するすべての人が道に深く関心を持ち参加することが優れた地域社会の形成につながり、「みんなで作る美しい道」が出来上がる。

◇人はどんな道を創ってきたか
交易の道／統治の道／学問・技術への憧れの道／人は美に集まる／宗教の道／人間性を求めて行動する
◇先進国の仲間入りをした後に
安心・安全の確保／人間の興味を誘う道／人間の喜び／樹木の撫育／健康志向／緑への思い／自然のなかを歩く／街道並木・街路並木／水と緑の組合せは相乗効果が抜群／伝統文化の会場と催事の舞台としての道／共同力でこそ道づくりだ／植樹は記念事業として最高の素材／公・共・私／わが町・わが庭／法人の社会貢献

□第2章 道と緑と環境

地球環境の問題と道の緑の役割を概説している。ネットワーク化された道路の緑は地域の緑の核となり、地域の環境を保全・育成している。道と緑と環境の調和を保つことが美しい国土づくりにとって重要である。

◇地球環境
かけがえのない地球／地球温暖化／資源エネルギーの枯渇／二酸化炭素の排出と吸収／生物多様性の保全／水・食料・住処／生物の更新時間
◇道の緑と環境
生活の安らぎや潤いを与える緑／地域をエコアップする緑／緑のリサイクル

□第3章 美しい道の作り方・活かし方

緑によってこんな美しい道ができるという具体的な事例を数多く示している。本書の中で最も多くの紙面を占める。ここでは、心を持った人間が感動する風景を創るという観点から、「情景」という言葉を用いている。

[中項目のみ] (この下に31の小項目がある。)
道という空間／情景の構造／生活と道と緑／生きものを活かした道づくり／美しい道の構造／美しい道の眺め／歩く江戸の旅の情景／自動車で行く道の情景／みんなで創る道

□第4章 心に響く道

人の心に響く道の事例を紹介している。この道は、用・強・美+聖の融和一体を持って成立する技術美に溢れ、その情景は人々に感動とドラマを呼び起こす。

思索の道／憂愁の道／祈りの道／安らぎの道／慰めの道／愛の道／語らいの道／希望の道／ときめきの道／追憶の道／思い出の道／望郷の道／「ふるさと村」構想

□あとがき

道は文化社会の基である。世界の人々は、その国の道を通して知覚し、人と心に接して、その国を評価している。その意味で、道の文化化は国土・都市・地域のショールームと言える。

(文責：「当て塾」事務局 野倉 淳)

■2007年6月 計交研・当て塾共催セミナー (第Ⅶ講・第4回)

●日 時：平成19年6月13日(水)17:00～20:00

●場 所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

①UR都市機構茨城地域支社長 横山陽氏
多摩NTの明日に向けて

②(財)日本交通公社 研究主幹 岩佐吉郎氏
忘れの里・雅叙苑のコンセプトづくり

●参加者：15名 (うち計交研関係5名)

[講義概要]

◆フォーラム当て No.3◆ (横山 陽)

多摩NT(ニュータウン)の明日に向けて

平成19年3月にUR都市再生機構(住宅公団→住宅都市整備公団→都市基盤整備公団)が施行する機構多摩NT事業(新住宅市街地整備事業)が終了してから一年が過ぎた。多摩NTにとって、新住事業の終了はいわば予定されていた通過点の一つであり、17万人を超える居住者の生活は、なんら昨日と変わるものではない。しかし、後世かりにNTの歩みを振り返ったときには、これがひとつのターニングポイントだったと気づくかもしれない。NT開発に携わった施行者の立場から、この歴史的節目を意識して、多摩NTの明日に向けてメッセージを発したい。

1. 多摩NTの特徴

多摩NTは、稲城・多摩・八王子・町田の4市にまたがり、人口は約20万人、面積は2,884haで山手線内の半分弱と広大である。

1965年に事業がスタートして40年が経過し、その間に、新住宅市街地開発事業(UR、東京都、東京都住宅供給公社)や土地区画整理事業(UR、東京都、市、組合)など、多様な事業主体による整備が行われてきた。

◇広い(空間)、長い(時間)、多い(主体)

2. 多摩NTの高齢化

多摩NTの高齢人口率は平均で12.1%(H18.11)であり、最も古い諏訪地区・永山地区が東京都(H18.9:18.7%)と同じ程度で、新しい地区では10%程度以下と低い。

S46年に入居が開始し集合住宅が95%を占める永山地区の人口動態は、この10年間に各年齢層の流出がある一方で20～30歳代の流入があり、現

在は東京都の人口構成と類似している。S59年に入居が開始し宅地分譲が半数近くを占める聖ヶ丘地区では、入居した多くの人々が定着しているが、子供の世代(20~30歳代)の流出が多い。

3. 多摩NTの明日に向けて

今後の多摩NTは、次のような対策により、まちを育てていく必要がある。

◇高齢者が安全に暮らし続けられる街

- ・地域の仕組みづくり (介護、日常生活等)
- ・住み続けられる住宅環境

◇若者を呼び込む街

- ・子育て環境の充実
- ・若者向け住宅
- ・就労場の確保

◇熟年層が安心して住み続けられる街

- ・教育・安全安心な環境
- ・新規住宅供給
- ・計画的建替え

◆観光地づくり事例紹介-3◆ (岩佐吉郎)

忘れの里・雅叙苑のコンセプトづくり

(鹿児島県牧園町・妙見温泉)

[主体] 忘れの里・雅叙苑 (企業)

[期間] 1987年~

[課題] 全国的に経営の難しい日本旅館との差別化/ライバル湯布院に打ち勝つ

[目標] 日本一の宿づくり/21世紀に生き残る旅館づくり「脱旅館」

[成果] TBS日本旅館大賞で2年連続金賞受賞/海外高級ホテルも多数視察/周辺旅館に波及、温泉地全体の活性化に貢献

[観光客への配慮] 宿泊客が宿に求めるニーズを徹底的に重視/「日本の昔、田舎の生活」、ノスタルジーがテーマ

[プロジェクトの段階とキーワード]

◇経営: 経営者のカリスマ的発想の集大成

◇企画: 時間の移ろいを楽しむ宿

◇計画: 国内ではじめての客室露天風呂

◇設計: 経営者の試行錯誤、設計変更の連続

◇施工: 地元茅葺き職人大工の道楽仕事協力

◇運営: スタッフに自信と誇りを植え付ける

(文責: 「当て塾」事務局 野倉 淳)

■2007年6月 計交研・当て塾共催セミナー (第Ⅶ講・第5回)

●日 時: 平成19年6月27日(水) 17:00~20:00

●場 所: 計画・交通研究会会議室

●講師・演題

①(有)あいランドスケープ研究所 菅博嗣氏

都市公園再考: 絵日記的方法論で探る

②(株)ラック計画研究所 主任研究員 大迫道治氏

蘭原ダム水源地域ビジョン

●参加者: 17名 (うち計交研関係6名)

[講義概要]

◆フォーラム当て No.4◆ (菅博嗣)

都市公園再考: 絵日記的方法論で探る

公共事業の一つのとして計画、建設されている都市公園は、「量的な目標が達成されない」「造れども使われない」などの悩みを抱えている。それは、「造ることが豊かさや充実感を創ることに結びつかないもどかしさ」を背負っているためである。都市公園の可能性は何か? 求められていることは何か?

社会的な存在意義や個々の市民生活ニーズにも耳を傾けながら、そもそも論を語り合い、創造していくことが求められている。その試行錯誤の一つを報告した。

用いたスキルは「絵日記」という情景表現である。ここに表現されたドラマを公園活用ニーズとして受け止め、空間整備への展開はもとより公園経営への参画意欲に結びつく素材として育んでいきたいと考える。

1. 近年の都市公園の概況と課題

都市公園は、どのようなつくり方や使い方が良いのか、どのような取り組みが重要か、と問いは尽きないが、その判断のために客観的に共有できるものは意外と少ない。

2. 既存物としての公園利用を調査する

都市公園が社会にどのように受け入れられ、管理運営がどのように評価されているかについて、実態調査が必要である。

3. 市民と一緒に公園をつくる取り組み

市民参加型での公園づくりは、利用者の観点から公園のあり方や公園づくりを眺めていく絶好の機会であり、利用率や整備効果の高い公園づくりの点から期待される。しかし、手続きのみ重視の参加型は注意が必要である。

こうした考えのもと、公園づくりに「パークライフ絵日記」を導入してきた。

4. 達成目標から公園利用を考える

公園づくりに関わる人々は、「公共の福祉の増進」という達成目標についての見解を持つ必要があり、その観点から公園のあり方を捉え直していくことが重要である。

5. 生活提案として捉え利用を問い直す

パークライフ絵日記を通じて、主人公である人がどのような人生を過ごしたいか、どのような都市生活を営みたいか、その時、どのような空間や施設、運営が求められるのかという捉え方から公園のあり方を考えたい。

6. 公共福祉増進に向けた潜在的利用調査

公園の潜在的利用調査であるパークライフ絵日記を活用し、市民生活の多様な営みのシーンを数多く交換することを通じて、豊かな市民生活と公園との関わりを見出したい。

◆観光地づくり事例紹介-4◆ (大迫道治)

菌原ダム水源地域ビジョン (旧利根村)

〔主体〕 菌原ダム水源地域ビジョン推進協議会

〔期間〕 2003年度～2007年度

〔課題〕 旅館経営者の高齢化・後継者不足／効果的なハード整備、ソフト対策／滞在環境の魅力づくり (空き店舗、老朽化)

〔目標〕 菌原ダム関連施設の利用及び上下流交流の促進による老神温泉の活性化

〔成果〕 上下流交流イベント実施 (ウォーキング、合唱コンサート) / 修景緑化活動の実施 / ダム湖畔環境整備 (2007年度～)

〔観光客への配慮〕

老神温泉利用者の体験メニューの充実を重視

〔主要事業〕 ウォーキングイベント (バス、記念品提供、ダム見学)、修景緑化 (花苗の提供)、ウォーキングルート整備 (湖畔遊歩道、花ばたけ、ダム展望台)

〔プロジェクトの段階とキーワード〕

◇企画：ウォーキング事業の段階計画

◇計画：ウォーキングイベントの試行

(文責：「当て塾」事務局 野倉 淳)

□ Announcement

研究会・催事の御案内 □

■あて塾との共催セミナー開催予定

●第6回 7月11日 (水) / 報告・事例とも未定

●第7回 7月25日 (水) / //

●第8回 9月5日 (水) / //

*8月は休講です。

※10月以降も、第2・4水曜日の予定です。

※セミナーでの報告者を募集しています。希望日とテーマをご連絡ください。

□ Backyard

事務局通信 □

■会議室等の御利用について

当研究会の会議室、応接室をご利用下さい。

定例研究会や個別研究会の開催時以外は部屋が空いています。会員の皆様はお気軽にご利用下さい。個別研究会等で会議室を御利用になる場合は、取りあえずお電話を下さい。

会議用にはOHP、スライド (Kodak)、液晶

プロジェクター (APTi) が有ります。

個別に利用できるデスクがあります。貸し出し用ノート型パソコン (IBM Think Pad)、FAX、電話、コピー、E-mailもご利用いただけます。

なお、会議室は現在利用率が非常に低い状況にあります。どうぞ、お気軽に御利用ください。

■個別懇談会のお申し込み

会員各位個別の研究やプロジェクト等につきまして、当会のフェロー会員・個人会員（地域的にも研究部門の面でも多彩な教授・助教授がおられます。既送の会員名簿を御参照下さい）が個別に御相談・懇談に応じます。ご希望により日時を調整しますので、事務局まで遠慮なくご相談下さい。出来れば具体的な研究課題・プロジェクト内容と、希望されるフェロー会員・個人会員のお名前をご連絡下さい。

■原稿の募集

会報に掲載する下記の原稿を募集します。

- ・ **Publication/Documents** : 刊行物・文献資料。
- ・ **Announcement** : 研究会・催事の御案内
会員による講演会等の御案内も随時掲載します。
日時・会場・事務局等を明記願います。
- ・ **Report** : 報告
海外研修報告、国際会議参加報告等

●原稿執筆上のご注意

- ①原稿のテキストファイルを電子メール（推奨。本文挿入または添付ファイルで）あるいは3.5インチのフロッピーディスクでお送り下さい。ワードプロセッサを使用される場合

は、MS-Word形式もしくは一太郎形式で文書ファイルを保存して下さいようお願いいたします。

- ②編集の都合上、400字を1単位としてその整数倍（上限4単位＝1ページ分：表題・図表を含む）になるように調整して下さい。2ページ以上に及ぶ場合は御相談下さい。
- ③写真を使用される場合は、プリントされたものを郵送願います。
- ④締め切りは偶数月の15日（必着）です。

■ホームページの刷新

ホームページを刷新しました。まだ不十分なところもありますが、逐次改善していきます。ご意見をいただければ幸いです。

新アドレスは

<http://www.keikaku-kotsu.org/>

■メールアドレスが変更になりました。

計画・交通研究会 事務局

jimukyoku@keikaku-kotsu.org

EASTS（アジア交通学会）事務局

easts@easts.info

アドレス帳の変更をお願いします。

計画・交通研究会

会長	黒川 洸
副会長	森地 茂
副会長	石田 東生
事務局長	清水 英範
会報編集委員長	藤井 聡
会報編集責任者	橋本 昭夫

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

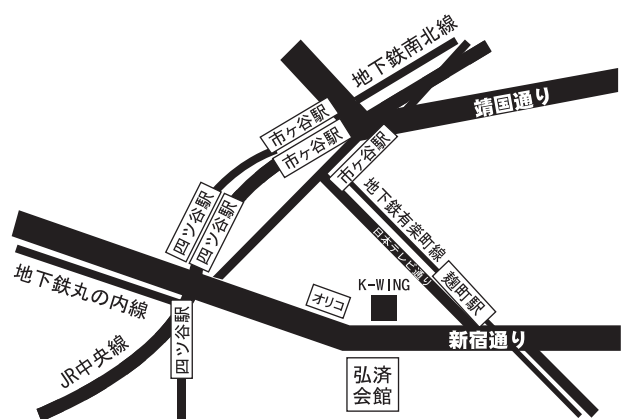
TEL=03-3265-1774

FAX=03-3221-5489

Homepage =

(新) <http://www.keikaku-kotsu.org/>

(旧) <http://www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/>



計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅麹町口から徒歩6分/地下鉄丸の内線四谷駅徒歩6分/南北線四谷駅徒歩7分/有楽町線麹町駅4番出口より4分

弘済会館前の大きなビル（オリコ）の右隣、1階にドラッグストア（クスリ）の入った小さなビル。